

【水彩画クラブ27】卒業後5年目の活動 2017年11月

◇第104回活動:2017年11月6日(月) 午後1時から ヌエック207室

今日の活動に金子さん、河原さん、小和瀬さんの3人が都合で欠席された。

9月以来活動を欠席されていた関矢さん、体調が通常に戻りつつあるとのことで2ヶ月振りにお顔を見せた。

「長らくご心配をお掛けしました。やっと戻って来られました」と皆に復帰の挨拶をされました。完全復調ではないので直ぐに席を外された。

12時にレストランで、佐久間さんと黒澤さん、関矢さんと会食し、

- ① 11月24日(金)予定の「美術展打上げ」会場について、『日本海庄や』に夕方5時からで予約したと関矢さん。
- ② 来年1月予定の新年会バス旅行について提案。佐久間さんから、金子さんの入院や関矢さんの体調などを考えて、来年5月頃を目途にバス旅行を設定する。それまでに積み立てていく等を話し合った。

課題写真『山小屋の煙』習作は10月9日の第103回活動から始まった。2回目の10月23日は大型台風21号の影響から活動を休止したので、今日が2回目となる。

1. 描く前にマスキングをしていく。

- ① 右側のオミナエシのような長い草の穂や、左側大木越の枝葉、小屋正面に生えている背の高い草などの先端部を、細いマスキング筆で課題を見ながら葉の形に描くようにマスキングしていく。
- ② 木や枝、草の茎にマスキング筆で描くようにマスキングしていく。
- ③ 右側小屋屋根の下にある丸太切り口に丸くマスキングする。
- ④ 小屋内に乾されているタオルや仕事着をマスキングする。
- ⑤ 左側大木根元付近の笹藪、その葉っぱの形にマスキングしていく。

2. 小屋中央の柱、右側小屋の柱に色を塗っていく。

褐色と焦げ茶色を混色し、薄めに小筆で描いていく。

3. 小屋前の草木を描いていく。

- ① 黄色、黄緑、緑色(普通の緑色、暗緑色、鮮緑色etc)を水溶きしておく。
- ② 前項2でつくった茶色を細筆に取り、左側大木脇に見える灌木や枝などを描いていく。
- ③ 右側小屋前のオミナエシのような草木の陽に映えて白っぽく見える先部分に、草の茎や葉の形を見ながら黄色で描いていく。
- ④ 黄緑や緑色を小筆に取り、左側大木横の枝葉や灌木の葉っぱを、葉っぱの向きや形を意識して描いていく。同じ色で草藪の下部分を、ドライブラシ技法で描いていく。
- ⑤ 塗った色をドライヤーで十分に乾かしておく。

4. 小屋正面軒下から板壁や板戸を描いていく。

- a. グリーン系 暗青色(多目) + 焦げ茶色の混色に、黄色を混ぜる
- b. ブルー系 暗青色(多目) + 焦げ茶色の混色
- c. ブラウン系 暗青色 + 焦げ茶色(多目)の混色
- d. ヴァイオレット系 暗青色 + 焦げ茶色(多目)の混色に、紫色を混ぜる

② 水彩色鉛筆の焦げ茶色、黒色、濃紺色を用意する。

(1) 正面屋根の雨樋下から濃紺色で線を引いていき、下の横木まで横線で染めていく。直ぐに黒鉛筆でなぞるように染めていく。

左に流れている庇際の影にも濃紺色と黒色鉛筆で染めておく。

(2) 軒下の横木を描くように焦げ茶色鉛筆でスツツと描いていき、直ぐに黒色でなぞっていく。

(3) 縦に張っている板幅線を、焦げ茶色鉛筆でスツツと線で描いていく。板壁の横木もその上下際に線を引くように描いていく。

(4) 立掛けてある板戸も同じように戸板の縦線や、周囲に焦げ茶色鉛筆で描いていく。板戸の左側と右側に出来た黒い影に黒色鉛筆で影を付けていく。

(5) 板戸の左側に見える柱の左右を、焦げ茶色と黒色鉛筆で描いていく。

② 小屋正面と右側小屋などに影色をおいていく。

(1) 雨樋下に水溶きしたブルー系影色をグリザイユ技法で色をおいていき、直ぐに下部へと水筆でぼかしていく。

斜め皮下側にはヴァイオレット系影色をおいていき、直ぐに下部へとぼかしていく。

(2) 正面板壁と角柱右側にはブラウン系影色を薄めにグリザイユ技法で色をおいていき、直ぐに水筆でぼかしていく。所々に茶褐色+朱色の混色を垂らし込み、直ぐに水筆でぼかしていく。

(3) 薄めに水溶きした茶褐色+焦げ茶色を小筆に取り、板戸全体を塗っていく。板戸の両側に出来ている黒い影に、ブラウン系とヴァイオレット系影色を小筆で塗っておく。

ドライヤーで乾かしてから板戸全体をマスキングしておく。

(4) 右側小屋の奥は、ブラウン系影色を皮下からおいていき、水筆でぼかしていく。

オミナエシ風の草まで同じ影色をおいていき、周囲を水筆でぼかしていく。

(5) 中央部下の草むら影に、グリーン系影色やブラウン系影色を垂らし込み、水筆で周囲をぼかしていく。

(6) 立掛けた板戸の左側暗部に、ブルー系やブラウン系影色をおいていき、水筆で周囲にぼかしていく。

5. 塗った色を十分に乾かしてから、右側小屋の奥に積んである薪の様々な形の切り口や木組みに、マスキングを施す。

ドライヤーで乾かしてから、濃い目のブラウン系影色を軒下から濃い目においていき、水筆で下部へとぼかしていく。

※ 今日の活動は、始めて17時まで時間一杯使い切って終了した。

6. 次回(11月27日(月))の活動予定

① 今日描いてきた小屋正面側の軒下、板壁、右側小屋の内側、小屋前の草やヤブなどを各自仕上げてくる。

② 宿題として、小屋の屋根に乗っている石にマスキングを施してくること。

◇第105回活動:2017年11月27日(月) 午後1時から スエック207室

今日の活動は欠席者が金子さん、木村さん、小和瀬さん、佐久間さん、関矢さんの5名(過去最高)となり、8名の仲間で仕上げていった。

◇活動開始の挨拶後、マスキング用水筆を会費負担で1人2本ずつ配られた。

◇次回活動で使う黄色と朱色が配られた。

◇次回活動の課題写真『裏磐梯の紅葉』として、B4サイズの写真が2枚配られた。

① 次回までに準備してくる。

(1) B4写真2枚を黒点印で張り合わせ、手本台にテープで止める。白線で16等分線を引く。

(2) 水張りしたF8のウォーターフォード水彩紙に課題絵をデッサンする。

今日の活動は10月9日から描いてきた『山小屋の煙』、3回目の今日仕上げていきます。

1. 左側大木の左脇にある枝葉を描いていく。

① 何種類かの緑色絵の具を水溶きしておく。

少し渋めの緑色もつくっておく。

鮮緑色、暗緑色、黄緑色、暗青色+黄色・・・

② 白っぽく見える葉っぱを、マスキング筆で描くようにマスキングする。

見えている枝などをマスキング小筆で描いていく。

③ マスキングインクを乾かしてから、明るい緑色で課題写真を見ながらドライブラシで描いていき、直ぐに水筆で散らしていく。

④ 塗った色をドライヤーで乾かしてから、密集する葉っぱの形にマスキング筆で葉っぱの向きを意識しながらダブルマスキングしていく。

⑤ マスキングインクを良く乾かしてから、少し渋い緑色を所々にドライブラシで描いていき、直ぐに水筆で散らしていく。

2. 左側大木を描いていく。

① 影色をつくっておく。

a. ブラウン系 暗青色+焦げ茶色(多目)の混色

b. ヴァイオレット系 暗青色+焦げ茶色(多目)の混色に、紫色を混ぜる

c. ブルー系 暗青色(多目)+焦げ茶色の混色

d. オレンジ系 焦げ茶色+オレンジ色

② 水彩色鉛筆の焦げ茶色、黒色、暗い群青色を用意する。

(1) 課題写真の大木を見ながら、木肌に見える筋を焦げ茶色で濃い目に描いていき、直ぐに黒色でその線をなぞるように描いていく。

- (2) 上部に見える窪みの淵も焦げ茶色や黒色で描いていく。
- (3) 下部に見える瘤や木肌の筋状にも、焦げ茶色や暗い群青色、黒色鉛筆で描いていく。
- (4) 薄めのブラウン系影色を平筆で上下にサーッと大木全体に塗っていく。
- (5) オレンジ系茶色で、大木上部の窪み内に色をつけていく。
- (6) 根元の影部には濃い目のブラウン系とヴァイオレット系を混ぜながら塗っていく。

3. 小屋の屋根を描いていく。

- ① 右側軒上部の板厚部分と手前の庇、煙出し屋根にもマスキングを施しておく。
- ② 暗青色+ヴァイオレットを混色し、水溶きしておく。
 - (1) 屋根全体に、つくった色を薄く塗っていく。
 - (2) 塗った色を乾かしてから、濃い目の同じ色を小筆に取り横木の板ある面に陰のように描いていく。

4. 右面軒下に積んである焚き木を描いていく。

- ① 白っぽく見える焚き木の切り口の何本かに、形を見ながらマスキングを施す。
- ② マスキングインクを乾かしてから、焚き木全体に薄めのオレンジ系茶色を塗っていく。
- ③ ドライヤーで乾かしてから、ブラウン系とヴァイオレット系の影色で、焚き木の並びを表現するように影をつけていく。
- ④ 屋根の底下と焚き木との間に、小屋手前の軒下を塗った要領で底下に焦げ茶色と黒色水彩色鉛筆で線を引くように描いてから、水溶きしたブルー系影色をグリザイユ技法で色をおいていく。

その上から濃い目のヴァイオレット系影色をおいていき、焚き木群を引き立てるように影をつくっていく。

※ 自分はここまでで終わったが、大木左側の枝葉すき間などに見える煙に塗る色は、空色+濃紺色の混色で描いていく